

第76回大会 TEAM FUKUOKA NEWS

福岡県選手団サポートニュース R3. 1.31(日). Vol.4

すごいぞ! TEAM FUKUOKA! 入賞ラッシュ!!

フィギュア種目成年男子 4位入賞! 有終の美を飾る!

1月29日(金)に名古屋市日本ガイシアリーナアイスリンクで行われた成年男子のFS(フリースケーティング)。本県代表は山田耕新選手((株)三井住友銀行)、中野紘輔選手(福岡県スケート連盟)の2名だ。28日(木)のSP終了時点で山田選手8位、中野選手9位となっており、入賞を狙える位置にいた。実は、今シーズンで引退を表明している山田選手と中野選手。今大会が選手として“最後の国体”となる。競技人生の集大成ともいえるステージに笑顔で挑んだ。山田選手は、コミカルで軽快な演技を披露し、他県選手も手拍子するほどスケートの楽しさを表現していた。中野選手は、最後まで自身のスケートを貫く、素晴らしい演技を見せてくれた。演技後、2名は「福岡県や県スケート連盟をはじめ、これまで支えてくださった先生方に感謝しています。」とコメント。今後については、山田選手は自身の仕事に専念し、中野選手はコーチとして本県選手を育成していきたいと、それぞれの道に向けた思いも語ってくれた。本県代表選手として長年にわたり活躍してくれた両選手に敬意を表したい。



【中野選手・山田選手】

アイスホッケー競技少年男子 7位入賞!

30日(土)豊橋市アクアリーナ豊橋アイスアリーナで行われたアイスホッケー競技少年男子の5位・7位を決める滋賀県との対戦。第1ピリオドは、滋賀県の猛攻を福岡が凌ぐ展開となり1点を先制された。第2ピリオド以降は、お互いのトランジションが目まぐるしく動く速い展開。本県は得点のチャンスをものにできず、滋賀県の攻撃に圧倒され0-6で惜敗。ベスト8以上の試合での得点がいかに難しいかを痛感させられる試合となった。しかし、最後まで身体を張ったプレーで戦い抜いた本県選手団。7位入賞という結果に胸を張って欲しい。試合後、安谷啓二監督((株)安谷製作所)は「来年は5位入賞以上の成績を。」という力強いコメントを残してくれた。もうすでに次の国体は始まっているに違いない。



【アイスホッケー少年男子】

フィギュア種目成年女子 4位入賞!

30日(土)名古屋市日本ガイシアリーナアイスリンク。全日本クラスの選手がひしめく中、竹野姉妹が成年女子のFSに出場。29日(金)行われたSPでは竹野比奈選手(福岡大学)7位、仁奈選手(筑紫女学園大学)8位と上々の位置につけていた。仁奈選手は、姉の比奈選手と同じ第3グループでの演技であったため、リラックスした状態で挑むことができ、総合10位となった。演技後、「今できる演技を精一杯できた。」と笑顔でコメントしてくれた。また、比奈選手は、余裕の表情で滑り出し。わずかなミスはあったものの、ほぼ完璧の演技で総合6位。結果、姉妹の総合成績で4位入賞という堂々の成績を収めた。試合後、二人は穏やかな表情で「来年は今よりもっと力をつけて優勝します。」と力強くコメント。全日本クラスの選手が数多く出場していた本大会のフィギュア種目において、少年女子・成年男子・成年女子の3種別において入賞したことは、本県フィギュアスケート選手団にとって大きな自信となった。



【竹野仁奈選手・比奈選手】